

山岳環境問題について・余談

穂苅 康治（槍ヶ岳観光(株) 代表取締役）

一山小屋の親父が、お話しできる題名ではないように思いますので、最近気になっていることを、ちょっとお話させてください。

北アルプスの低山帯では、今、鹿やイノシシが、山の中まで出没して、高山植物等を食べて困っています。また、サルも上高地付近や天上沢からの登ってきており、雷鳥を追いかけていたりしています。一説には、雷鳥を食べていたとも言われています。昔のことを言えば、猟師も鹿やイノシシを獲って生業を立てていた訳ですので、そんなに驚く事ではないかもしれません。しかし、鹿やサルが最近ほど多く山に出没していることは、異常ではないでしょうか。これについては、日本山岳会等の自然保護団体が、動き出しています。森林管理署や長野県林務部でも長年、鹿等の駆除に頑張っておられますが、猟師の高齢化もありなかなか進捗していません。

登山者の安全を守る

長野県や岐阜県では登山者の安全を確保するために、登山条例を設け、入山届の提出を義務化しています。北アルプス南部の山小屋では、北アルプス・ブロードバンドネットワークを通じて小型の情報機器を各山小屋に設置して登山者の安全を図る試みも始まっています。長野県では登山条例の運用に合わせて、詳細なガイドラインも設けていますので、参考までに送らせていただきます。ただ、長野県については罰則規定がないので、実際にどの程度一般登山者が入山届を出してくれるのかは、未知数です。

安全の確保のために、すべての登山者が、入山届を提出してくれるように願っています。長野県警察のデータによると 60 歳代の遭難者が多く、単独か 2 人組の登山者の遭難が多いとされており、男女比では、男性が圧倒に多いそうです。遭難の態様としては転滑落や転倒が全体の 5 割以上と言われています。不注意による事故が最も多いということだと思います。

また、槍穂高周辺では、長野県警察によってヘルメットの着用が推奨されています。実際に、ヘルメットの着用によって助かった方もいるようです。

外国人登山者の対応

槍ヶ岳周辺の外国人の登山者は、1,500 人ほどで、富士山やニセコのように大勢ではありません。個人でロンリープラネットのような本を持ってくる登山者もいれば、日本人のガイドを連れてくる外国人もいます。日本食が食べられない人、食物アレルギーの人も来ますが、出来るだけ対応をして、快適に登山を楽しんで頂けるように努力しています。